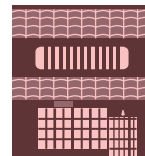


京町家通信

KYOTO' s
きょうの
TODAY' s



MACHIYA
まちや
MACHIYA

KYOMACHIYA PRESS Vol.139
2026年2月発行

講演
案内



公開シンポジウム「京町家の未来を考える2026」を開催します！



2024年12月に開催した公開シンポジウム「京町家の未来を考える」では、地域住民が抱える問題点を明確にした上で、不動産や税制、京都市で検討中の施策など、多方面の専門家からご意見やご提案をいただきました。さまざま視点から歴史都市京都で京町家が生き続けるために必要な課題を洗い出し、整理する機会となりました。京町家再生研究会では、これらの提案をもとに、参加者のアンケート回答も踏まえて検討を重ね、2025年6月、京都市に「京町家を守り未来へ引き継ぐための緊急提言」を提出しました。

新しい年を迎え、提言でとりあげた取組のうち、できることは一つでも、少しずつでも進めていくために、今回は主に税金や財源について、より具体的な方策を検討していくシンポジウムを開催します。前回コメンテーターを務めてくださった財政学が専門の後藤和子先生、パネリストを務めてくださった不動産鑑定士・税理士の辻本尚子先生に再びご登壇いただきます。これまでお二人を中心に、ワーキンググループを結成し、勉強会を重ねてきました。そこで検討された問題点や将来性のある方策について、さらに議論を深めていくシンポジウムです。京町家の未来をともに考えていきましょう。みなさまのご参加をお待ちしています。

公開シンポジウム 京町家の未来を考える2026 歴史都市京都のマネジメントII

日時	2026年2月15日(日) 14:00~16:00
会場	京都経済センター 大会議室6-D
定員	80名(事前申込必要)
参加費	無料
パネリスト	後藤和子 (同志社大学創造経済研究センター) 辻本尚子 (不動産鑑定士、税理士) 小島富佐江(京町家再生研究会)
コメンテーター	高田光雄 (京都美術工芸大学、京町家再生研究会)

申込先

申込フォーム



再生研究会事務局E-mail
saisei@kyomachiya.net

シンポジウム案内



経緯などはこちらから→

参考:勉強会のポイント

その1 京町家に関する税制を考える

辻本尚子先生を囲んで、実現性が高いと考えられる京町家の固定資産税軽減に向けて、具体的な方法や課題などを検討しました。対象となる京町家をどのように規定するのか、など様々な課題が明らかになりました。

また、固定資産税における住宅用地の課税標準の特例を社会・経済情勢の変化に応じて見直す、相続税における農地の納税猶予を京町家に応用するなど、さまざまな可能性を模索しました。

議論の中で、「居住」としての京町家の位置付けが重要であり、「暮らしの形を考える」ことが大切なポイントであることがわかりました。暮らしの中で何を大切にしていくのか、暮らさずの目のまちなかで隣り合う家々と共存するためにはどんな形が望ましいのか。都市の中で培われてきた暮らしの形をもう一度見直していきたいと考えています。

日時	2025年12月20日(土) 14:00~16:00
会場	京都経済センター 会議室 4-I
講師	辻本尚子
参加者	10名

その2 財政学からみた京町家

後藤和子先生を囲んで、京町家がなぜ減少しているのか、まちづくり資源として活用できていないと感じられるのはなぜか、など、日頃感じている「もやもや」を整理していきましました。京町家条例などにより、これまでは規制と補助金で京町家の減少を抑えてきたと考えられますが、今後は、税額控除など、歴史都市京都があるべき姿、ビジョンに向かって誘導する方法が必要であることを痛感しました。また、大型町家、地区指定の町家、個別指定の町家、借家、路地家屋、空き家など、それぞれが抱えている問題は異なるため、個別のケーススタディに基づいた検討が必要であることも重要です。企業の活用を推進するためには企業側のコンプライアンスがネックになるという新たな課題も浮上しましたが、財源を受け入れる手法など、今後の展開については新春らしく夢が広がるひとときもありました。

日時	2026年1月12日(月・祝) 14:00~16:00
会場	京都経済センター 会議室4-I
講師	後藤和子
参加者	9名

龍野の重要伝統的建造物群保存地区でまちあるき



日 時 2025年12月6日(土)
講 師 岸野裕児(岸野建築設計工房)
参加者 11名

令和元年(2019)12月に国の重要伝統的建造物群保存地区に指定された龍野を訪れました。京町家再生研究会と京町家友の会の共同の企画です。龍野の歴史は相撲の祖とされる野見宿禰の墓があるなど古墳時代に遡り、16世紀頃には龍野城が築かれたとのこと。その後江戸時代には脇坂氏200年の治世の下、醤油醸造業や素麺製造業が発展し、今につながる城下町が発展しました。長年伝統的な町並みを守るため、「たつの市龍野伝統的建造物群保存地区」として整備されてきましたが、重伝建指定後、どのように変わったのか、見学する機会となりました。

当日は、京都からバスに乗り合わせ、たつの市内に到着。まずは龍野の名物、世界でここで見られない天然記念物「片しば竹」が見られる「片しば竹の宿 梅玉」で、案内役の岸野裕児氏と合流、お昼ごはんをいただきました。岸野氏は、龍野で数十年にわたり、町家再生に取り組まれています。

いよいよまちあるき。江戸時代の石垣が残る小路から山裾に広がる龍野城、町並みに配慮して移築された門をもつ小学校と町並みへの配慮を欠いているように見える裁判所のモダンな建物などを対比してご案内いただきました。龍野の基幹産業である醤油の醸造所も伺い、伝統的な建物の中での近代化された醤油の醸造の様子も見学させていただきました。また、岸野氏の手がけた町家再生事例と、改修中の様子も拝見し、岸野氏の町家事務所も見学させていただきました。晩秋の快晴のもと、まちの隅々まで、現在の様子を拝見し、伝統の良さを慈しむ龍野の皆様の気持ちが感じられる見学会となりました。ご案内いただきました岸野氏には参加者の要望に臨機応変にご対応いただき、短い訪問時間ではありましたが、中身の濃い見学会となりました。改めて感謝申し上げます。

実測
調査

旧東奥谷家住宅 実測調査



富田林市寺内町は江戸時代からの環濠集落の町並みが残り、大阪府で唯一の重要伝統的建造物群保存地区です。その中にあり富田林市が所有する旧東奥谷家住宅について、阪急コンストラクション・マネジメント株式会社が維持活用の検討を進めています。京町家再生研究会は、その基礎調査に協力し、実測調査を行いました。調査には、経験豊富な設計塾のOB・OGと今期(8期)塾生等合計12人が参加し、2025年10月12、13、25日の合計3日行いました。旧東奥谷家は、文政12年(1829年)築の主屋のほか土蔵、長屋棟など計6棟が屋敷地を取り囲んで、街区の西半分を占めています。塾生達は、歴史ある建物に圧倒されながらも、熱心の実測を行っていました。現在は、実測調査を元に図面化を進めているところです。

特定非営利活動法人 京町家再生研究会
京町家友の会

604-8214 京都市中京区新町通錦小路上の百足屋町 384 番
TEL 075-221-3340
FAX 075-231-0727
E-mail saisei@kyomachiya.net (京町家再生研究会)
tomonokai@kyomachiya.net (京町家友の会)



京町家情報センター

604-8241 京都市中京区三条通新町西入釜座町 32 番
TEL 075-213-1430
FAX 075-213-3013
E-mail joho@kyomachiya.net

オーナー登録数: 延 337 物件登録数: 延 2418
ユーザー登録数: 延 2029 成約件数: 延 252
(2025 年 9 月 6 日現在)